

県内男女100人に聞きました (インターネット&FAX&ヒアリング)

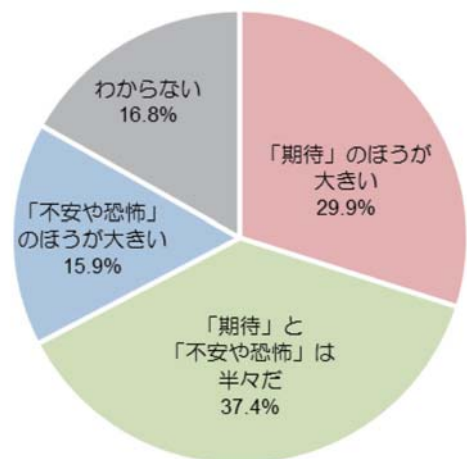
## 未来の生活

県内では、ハウステンボスで「変なホテル」やドローンを使った光のショーなどが話題を集めており、近い将来、人口知能 (AI) やロボット、ドローンの普及などが、私たちの生活のなかで、もっと身近なものとなることが予想されます。そこで、今回は、第四次産業革命と呼ばれる動きのうち、人口知能 (AI)・ロボット、ドローンの活用について意識調査を行いました。

### 人口知能 (AI) の普及には 期待半分 不安半分

人口知能 (AI) が普及することに期待するのか、不安や恐怖を感じるのか尋ねたところ、約4割の人が「期待」と「不安や恐怖」は半々と答えました。一方、「期待」のほうが大きいと答えた人は約3割、「不安や恐怖」のほうが大きいと答えた人はその半数強でした。

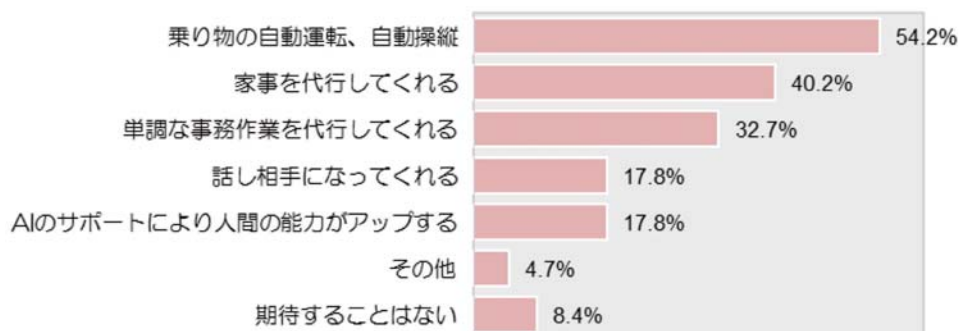
人口知能(AI)が普及することについて(SA)



### 乗り物の自動運転、自動操縦に期待も、エラーによる事故や混乱が心配

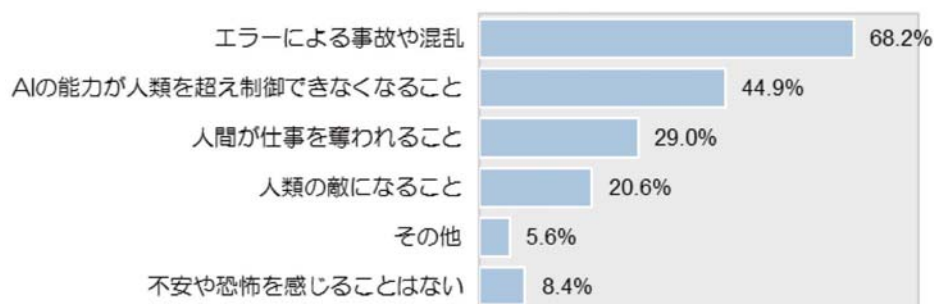
人口知能 (AI) に対してどのようなことを期待するか尋ねたところ、最も多かったのは「乗り物の自動運転、自動操縦」でした。これに、「家事の代行」、「事務作業の代行」が続きました。

人口知能(AI)に対して期待すること (MA)



一方、人口知能（AI）に対して、どのようなことに不安や恐怖を感じるか尋ねたところ、「エラーによる事故や混乱」と答えた人が約7割に上りました。次いで「AIの能力が人類を超え制御できなくなること」、「人間が仕事を奪われること」となりました。

人口知能(AI)に対して不安や恐怖に感じること (MA)



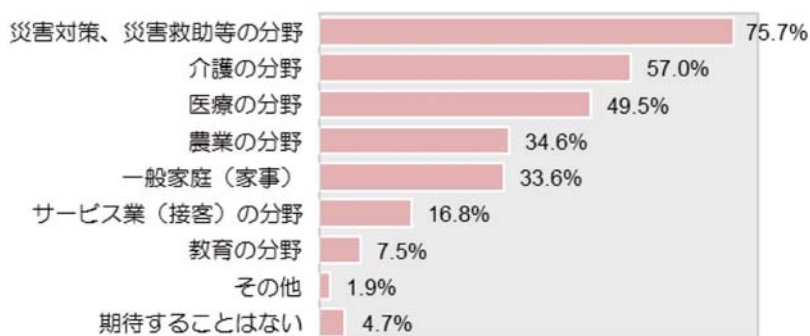
## AI・ロボットの普及が期待される分野は「災害救助」「介護」「医療」

どのような分野で、AI・ロボットが普及することを期待するか尋ねたところ、4分の3に上る人が「災害対策、災害救助等の分野」と答え、AI・ロボットが、災害に対し活躍することに大きな期待が寄せられていることがわかります。これに次ぐのが「介護の分野」、「医療の分野」でした。

「被災地や事故現場など人間では二次災害の危険があって立ち入れない場所に、いち早く行って、救助活動や復旧作業をしてくれること」や「力仕事で人手不足の介護などには是非必要。また孤独な高齢者世帯等にも、車を運転できるものがあるのは良い。弱者には優先的に、率先して導入し、補助して利用しやすくすべき」といった意見がみられました。

一方、「サービス業（接客）の分野」や「教育の分野」に期待する人の割合は低くなっています。

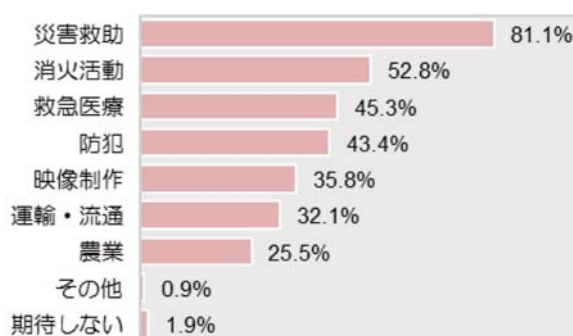
AI・ロボットの普及が期待される分野 (MA)



## ドローンの活用は「災害救助」「消火活動」に期待も、規制は必要

どのような分野で、ドローンが活用されることを期待するか尋ねたところ、8割に上る人が「災害救助」と答え、これに「消火活動」、「救急医療」、「防犯」が続きました。

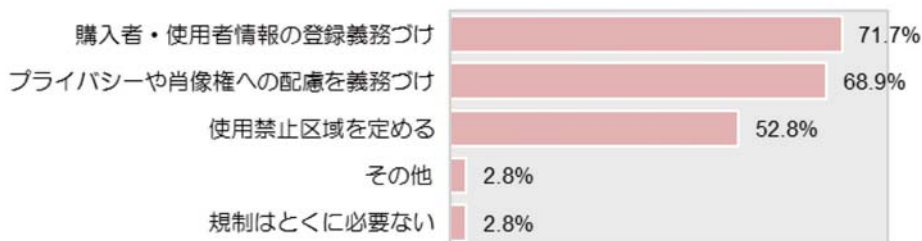
ドローンの活用が期待される分野 (MA)



また、ドローンの活用について、どんな規制が必要と思うか尋ねたところ、「購入者・使用者情報の登録を義務づける」、「プライバシーや肖像権への配慮を義務づける」がともに約7割と高い割合を示し、これに「使用禁止区域を定める」が続きました。

ドローンに関する規制については、「規制は厳しくした方がいいと思う」という意見があった一方で、「きりがなが、結局なし崩しになりそう」といった意見がみられました。

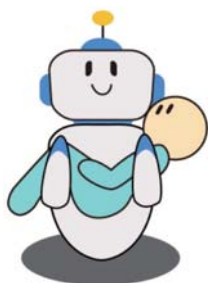
ドローンを活用する上で必要と思われる規制 (MA)



## あなたが思い描く「未来の生活」とは、どんなものですか？

### AIと共存する未来に期待

- 人間にしかできないことは人間がして、家事や事務的な作業はロボットがするといい。便利な生活。
- 危険なことはロボットが行い、安全な生活を送ることができるもの。
- AIなどの普及で重労働が減り、体の不調が減る。
- AIにより単調な事務作業が減り、仕事時間が減る。
- AIとの共存がうまく働き、暮らしが楽しくなれば良いと思う。
- AIの進歩により、人類の役に立つ事は間違いないと思うが、進歩についていけるか不安な思いもある。「鉄腕アトム」のようなロボットと人類が心が通じ合う事ができる世界が理想。
- 人間とAIの共存共栄。
- AIと人間がつくる平和な世の中。
- 身近にロボットなど手助けする機械類がある未来。特に一人暮らしや、介護が必要な家庭など、労力を減らしてくれるロボットなどが増えると、助かると思う。
- 人が重労働から解放され個人個人が自発的に社会に加わり役に立てるような未来。
- AIやロボットを人類が上手に活用し、労働者が不足している分野などでロボット等が活躍している。
- AIをいろんな場面で活用し人間がより人間らしく活動出来る未来がきたら素晴らしいと思う。
- 機械が主となるのではなく、人間の補助としてあれば助かります。



- まわりに迷惑をかけず、介護ロボットと暮らしたい。
- 高齢者に一人に一台介護ロボットがついていて病院の付き添いとか生活サポートをしてくれるような時代になるのかな？と思う。出来ればイケメンロボットがいいですね。

### あったらいいな

- 行きたい場所を設定すれば、寝ていてもそこに事故なく連れて行ってくれるマイカーがあればいいな。
- 車がガソリンいらなくて空を飛ぶ。傘より便利。一人ひとりに空調設備が整う。
- 家のことをやってくれるロボットがほしい。
- 介護や保育するロボット。
- 免許もいらぬ空間移動箱。まるで無人のタクシー。
- 車が空を自由に飛べる。

### 不安や心配も

- このまま進化すればするほど子育て、介護、医療と頼れるようで頼れない生活が待っているようで・・・自分の分身が欲しいですね。そうなる前にストレスを溜めない昔の生活が良いと思います。
- あまり、ロボットが普及することは望まない。
- AI・ロボットなどの普及で便利になるのも良いのですが、頼り過ぎた生活はしたくないと思います。
- AIを使うことで、便利にはなると思うが、行き過ぎると戻れなくなりそうな感じがする。
- 各家庭には家電製品と同じようにロボット一台は普通となり、家事等を全て任せる事ができるようになる。もしそうなれば、楽しいような怖いような……。性格が素敵なロボットを購入することに躍起になりそう。
- コンピュータやAIの発展による世界ではなく、地球を壊さないで、自然と共存していける世界。
- ドローンが飛びすぎると心配。
- IT化が進み、年配者には大変な世の中。
- 人間と科学の力のバランスが保たれて、より良い世界になることが望ましいが、どちらか一方が強すぎるとバランスを失いとたんに大変なことがおきそうである。バランスがとても大事だと思う。

調査方法：(有)みかんコミュニケーションズが運営する長崎県内女性ネットワークMONET登録会員を中心に、インターネットとFAX及びヒアリングにより県内在住の男女107名より回答を得ました。

調査期間：2017年7月27日(木)～8月8日(火)

回答者属性：【性別】男性39名、女性68名 【年齢】10～20歳代16名、30～40歳代44名、50～70歳代47名  
【居住地】県南地区88名、県北地区2名、県央地区8名、離島地区9名